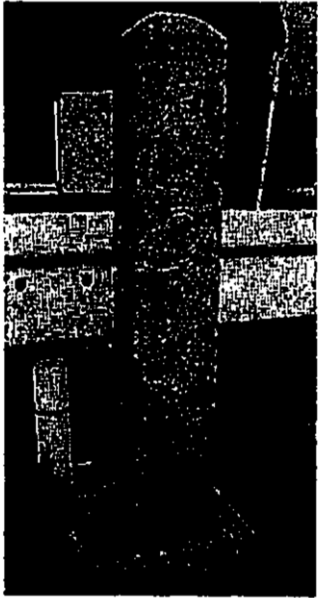


時の流れの生き証人



野崎観音道の道標

深野 二丁目

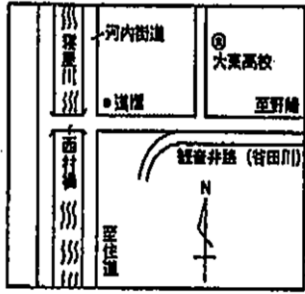
ゴールデンウィークと重なり、毎年五月一日から十日間にわたり現在の野崎参り。遠方からの参拝者は、JR野崎駅から歩いて参るのが一般的コース。

野崎参りが盛んになっ

たのは、江戸元禄時代ごろ。昔の野崎参りの道筋は、寝屋川を通過して、現在の谷田川にあたる観音井路（いじ）を行く舟路と、舟路に沿った陸路。寝屋川を離れ、東に向かう野崎観音道の入口には、昔の参拝道を

今に伝える道標がある。
天保八年（一八三七年）、野崎観音から西へ約一・五キロ離れた地点に建てられたこの道標の「右のさね観音道 左 大阪道」の文字は、今でもはっきりと読み取れる。

人通りが多く、たくさん入るの目に触れながらも、昔の野崎参りの面影だけを残して、交差点東北隅にガイドレールを背にしてひっそりと建っている。



時の流れの生き証人



おかげ燈籠 灰塚三丁目

伊勢参りは、古代、庶民には禁止されており、禁制がゆるんでも、屋主や家族にも黙って旅立つ者が多く、ひそかに参る抜け参りの形がとられた。そのため、旅の準備も十分でない者が多く、

大和のあたりでは「おかげでさ、ぬけたとき」と拍子をつけ踊るおかげ踊りに村人たちは熱中した。

灰塚のおかげ燈籠（とうろう）は、この乱舞が普まっていた天保二（一八三一）年、村の指導者たちが村の安全を願って建てたもの。本市に七基あるおかげ燈籠のうち五基までが、この時のおかげ踊りがきっかけで建てられた。

